

## モデルプログラム集

(株)荒木組（岡山市） ..... p1

マスメディアを通じて瀬戸内海と川・里の  
つながりを広く発信

工事現場の仮囲いを使った普及啓発

N I K 環境(株)（倉敷市） ..... p5

“ゆるキャラ”を活用した瀬戸内海の環境保全


倉敷木材(株)（倉敷市） ..... p7

森と瀬戸内海のつながりを感じてもらう  
「暮らしと木のフェア」の開催

服部興業(株)（岡山市） ..... p9


上流の森のことを下流の人々に発信

## (株)荒木組-1

<b>プログラム名</b>	マスメディアを通じて瀬戸内海と川・里のつながりを広く発信
<b>概要・ねらい</b>	瀬戸内海的环境保全に向けて問題となっている、漂流ごみ、漂着ごみ、海底ごみの解決には、森里川でのポイ捨てゴミの抑制が欠かせない。普段の清掃活動の実績を踏まえ、社員有志による海ごみ、川ごみの清掃活動への体験を通じて、気が付いたことや感じたことなどを、瀬戸内海と里や川のつながりとして、マスメディアを通じて流域市民や関係するステークホルダーに広く発信する。
<b>ESD の主な視点</b>	ESD の要素：多様性○、相互性◎、有限性○、公平性○、連携性◎、責任性○ 能力・態度：批判○、未来○、多面◎、伝達◎、協力○、関連○、参加○
<b>ESD の主な対象</b>	主に社員、その家族やOB。また、企業からの発信を通じて流域の一般市民 等
<b>プログラムの流れ</b> ※2016 年度中に実施するイメージ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>① 7月7日 川ごみの清掃活動を実施</b> </div> <p>既存のボランティア活動を拡大して、河川管理者や環境団体と連携し、旭川右岸で清掃活動を実施する。日程はプレスリリースした際に、マスメディアが取り上げやすいよう「川の日」に合わせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>② 7-8月 海ごみの清掃活動に参加</b> </div> <p>海の日（7月第3月曜日）などに環境団体や漁業関係団体が催す海ごみ回収活動に参加する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>③ 9-10月 マスメディアで発信する内容を検討</b> </div> <p>①川ごみと②海ごみの清掃活動への参加を通じて、漂流ごみ、漂着ごみ、海底ごみと川ごみの類似度から、気が付いたこと、感じたこと、流域の市民に知らせたいこと、そのキャッチコピーなどをアンケートにて集める。それをもとに、ESDの専門家とワークショップを行い抽出、整理する。特に公表されている資料で一般に知られていない事実を中心に掲載内容の検討を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>④ 11月～ マスメディアを通じて一般市民に広く発信</b> </div> <p>①～③の結果を踏まえて、新聞等を通じた自社の広告宣伝活動の中で、瀬戸内海と里や川のつながりについてのメッセージを掲載し、流域の市民に広く発信する。その他、社内報やHPでも発信する。</p> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  <p>新聞広告の例</p> </div>

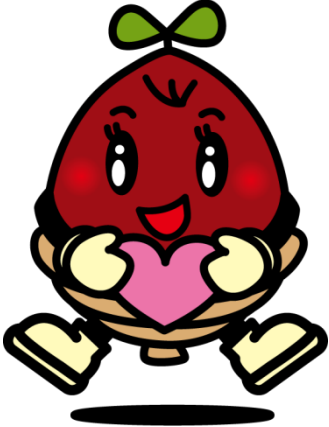
<p><b>留意点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①の川ごみの清掃活動は、プレスリリースした際にマスメディアが取り上げやすいよう「川の日」を行うことを検討する。また、実施する場所は、現在本社周辺（表町・天瀬地区）を中心に行っている清掃活動を旭川右岸・新京橋周辺エリアまで拡大する。</li> <li>①②はネットワークを活かし、協力業者にも本キャンペーンへの参加を呼びかける。</li> <li>③は、海ごみの問題の紹介にとどまらず、海ごみと川ごみをセットで体験した社員の気付きや感じたことを重視し、広告の紙面等を検討する。</li> </ul>
<p><b>発展性</b> ※2017 年度以降</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>その他、川ごみに限らず、普段、河川で事業を行うにあたり、川の環境について気が付いたことなどを、マスメディア等で積極的に発信する。</li> <li>既存の街中で行う清掃活動の名称や目的に「海ごみの対策」を入れ、社員有志や市民に、街でのマナー違反が瀬戸内海の漂流ごみ、漂着ごみ、海底ごみの問題につながっていること、豊かな水産資源に悪影響を及ぼしている可能性があることへの理解を促す。</li> </ul> <div data-bbox="660 860 1046 1149" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;"> <b>荒木組地域貢献活動</b>  <b>「第4回 天瀬・表町清掃活動」の様子</b>  <b>2015年4月5日</b> </p>

## (株) 荒木組- 2

プログラム名	工事現場の仮囲いを使った普及啓発
概要・ねらい	瀬戸内海的环境保全に向けて問題となっている、漂流ごみ、漂着ごみ、海底ごみの解決には、森里川でのポイ捨てゴミの抑制が欠かせない。工事現場の仮囲いを広告塔として活用し、流域の視点からの瀬戸内海保全について発信し、市民の意識を高める。
主な ESD の視点	ESD の要素：多様性○、相互性◎、有限性○、公平性○、連携性◎、責任性○ 能力・態度：批判○、未来○、多面○、伝達◎、協力◎、関連○、参加○
ESD の主な対象	主に社員。また、企業からの発信を通じて流域の小中校や工事現場周辺の住民 等
プログラムの流れ ※2016 年度中に実施するイメージ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>① 小学校等へ出前講座の準備</b></p> <p>河川工事を通じて普段思うこと、また、川ごみ、海ごみの清掃活動の体験を通じて気付いたこと、感じたこと、多くの人に知らせたいことなどを踏まえて、「社員による出前講座」のプログラムを作成する。出前講座のプログラムを検討する際には、事前に教育関係者や、必要に応じて ESD の専門家に相談する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>② 出前講座の実施</b></p> <p>必要に応じて、自治体や環境学習施設の紹介のもと、小学校等を対象に出前講座を実施する。出前講座を受けて、子どもたちに感じたこと、気が付いたことをもとに、絵、キャッチコピーを考えてもらう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>③ メッセージを掲示する場所（工事現場の仮囲い）の選定</b></p> <p>市民の目にとまりやすい河川や市街地の工事現場から、会社からのメッセージを掲示する場所（工事現場の仮囲い／右下写真）を選定する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>④ 工事現場の仮囲いにメッセージを掲示</b></p> <p>工事現場の仮囲いに、子どもたちの作品を掲示し、散策する方などへ普及啓発を行う。</p> </div> 
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>出前講座の内容には、社員が河川事業や、ごみの清掃活動などを通じて気付いたこと、感じたことなどの想いを表現することが大切。</li> </ul>
発展性 ※2017 年度以降	<ul style="list-style-type: none"> <li>○既存の絵画コンクールの受賞作品を掲示</li> <li>・瀬戸内海的环境保全やゴミの問題を題材とした、既存の絵画コンクールの受賞作品を掲示する。</li> </ul>



## N I K環境(株)

<p>プログラム名</p>	<p>“ゆるキャラ”を活用した瀬戸内海の環境保全</p>
<p>概要・ねらい</p>	<p>NIK 環境ではゆるキャラ「エコ&amp;ピース ラヴちゃん」を製作した。2015年のゆるキャラグランプリにおいて102位/1,727位と大健闘したゆるキャラである。</p> <p>このゆるキャラを主人公に、森里川海を通じた瀬戸内海の環境保全を題材にしたストーリーをつくり、普及啓発用のマスコットとして、また、環境学習プログラムとして沿岸域や上流域の教育機関等に積極的に提供する。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; background-color: #ffffcc; padding: 10px; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p style="text-align: center;"><b>ECO &amp; PEACE! ラヴちゃん</b> プロフィール</p> <p>性別：女の子          出身：森のなか          誕生日：ふめい          性格：元気いっぱい</p> <p>体はどんぐりをイメージし、エコと平和をハートで表現したキャラクターです。</p> </div>
<p>主なESDの視点</p>	<p>ESDの要素：多様性○、相互性◎、有限性○、公平性○、連携性◎、責任性○</p> <p>能力・態度：批判○、未来○、多面○、伝達◎、協力◎、関連○、参加○</p>
<p>対象</p>	<p>主に子供（園児、小学生）および学生（高校生、専門校生、大学生）、と教育機関、環境保全活動団体、社員 等</p>
<p>プログラムの流れ ※2016年度中に実施するイメージ</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>① ゆるキャラによる瀬戸内海保全のストーリーの検討</p> <p>・瀬戸内海の環境保全の普及を目的に、「エコ&amp;ピース ラヴちゃん」が登場するストーリーを、ESDの専門家と県内の学校、もしくは学生と連携し作成する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>② ゆるキャラによる瀬戸内海保全の動画等の制作</p> <p>・「エコ&amp;ピース ラヴちゃん」が登場するストーリーを踏まえて、3～5分程度を1単位とした動画（映像教材）、あるいはパワーポイントによる紙芝居を、ESDの専門家と県内の学校、もしくは学生と連携し作成する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>③ ゆるキャラによる出前講座のプログラムの作成</p> <p>・制作した動画等や着ぐるみの使用、歌やギターなど音楽的な要素も必要に応じて盛り込みながら、45分間の出前授業のプログラムを教育関係者やESDの専門家と連携し作成する。</p> </div>

	<p style="text-align: center;"><b>④ ゆるキャラを活用した普及啓発の展開</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「エコ&amp;ピース ラヴちゃん」と、ラヴちゃんが登場する瀬戸内海的环境保全のストーリーや映像教材を、多様なステークホルダーに発信し、各ステークホルダー主催の催しにおける瀬戸内海的环境保全の普及活動を支援する。</li> <li>・次年度の授業計画等を検討する年度末に向けて、「ゆるキャラを活用した瀬戸内海的环境学習プログラム」を自治体や環境学習施設等と連携し教育機関や保育機関等に周知し、希望するところに学生等と連携しプログラムを提供する。</li> </ul>
<p><b>留意点</b></p>	<p>○①でストーリーの検討を行う際には、以下に留意し行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな瀬戸内海に向けた課題</li> <li>・豊かな瀬戸内海を保全するために大切な森里川海のつながり</li> <li>・NIK 環境の事業の特色 等</li> </ul> <p>○制作した動画等は、ホームページで見られるようにする。</p> <p>○企画からプログラムの提供に至るまで、学生インターンの活用を検討する。</p>
<p><b>発展性</b> ※2017 年度以降</p>	<p>○貸し出しを有料とする場合、あわせて、貸し出しの費用はどんぐりポイントの活用を検討する。</p>

## 倉敷木材(株)

<p>プログラム名</p>	<p>森と瀬戸内海のつながりを感じてもらおう「暮らしと木のフェア」の開催</p>
<p>概要・ねらい</p>	<p>瀬戸内海の環境保全を目指すうえで、流域内の森里川における自然共生社会や循環型社会、低炭素型社会の実現が欠かせない。</p> <p>毎年春と秋に開催している、岡山県下最大級の木のイベント「暮らしと木のフェア」では、木材という自然素材の良さを参加者に伝えるとともに、端材利用の促進にも努めている。このイベントを活用し、下流地域に住む人々の水源としての森の重要性など、森が瀬戸内海流域において果たしている役割を整理し、フェアに来場する多様なステークホルダーが関心をもつよう工夫し発信する。</p> <p>この出展に至る企画や準備を社員参画で行うことにより、社員の企業としての情報発信、商品・サービス、社会貢献を考える人材育成の機会とする。</p> <div style="text-align: center;"> <p>「暮らしと木のフェア」の様子(環境活動レポートより)</p>  <p>端材を多数展示                      一枚板や木の小物に触れて頂く                      「マイ著作リコーナー」も設置</p> </div>
<p>主な ESD の視点</p>	<p>ESD の要素：多様性◎、相互性◎、有限性○、公平性○、連携性○、責任性○</p> <p>能力・態度：批判○、未来○、多面◎、伝達◎、協力○、関連◎、参加○</p>
<p>対象</p>	<p>主に社員</p>
<p>プログラムの流れ ※2016 年度中に実施するイメージ</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>① 4月 プロジェクトチームに参加する社員の募集(選定)</p> </div> <p>・フェアの出展方針を検討するプロジェクトチーム(社員5名程度)を編成する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>② 5-6月 ワークショップの開催(題材の抽出)</p> </div> <p>・プロジェクトチームの社員に ESD の専門家が加わり、住宅資材販売や木材加工、家づくり、リフォーム等の事業をはじめ、地域づくりに関する社会貢献活動における瀬戸内海環境保全との関わりを抽出、優先順位をつけて整理する。抽出時には、森里川海の順で抽出を行う。</p> <p style="text-align: center;">↓</p>



例えば・・・

[森]

- 県産材の使用は、森の生物多様性を保全し、健全な森の生態系を育むことにつながる。その理由を人工林の生物多様性への課題と関連づけて、わかりやすく伝える。
- 森の生態系を育むことが、食卓で毎日おいしい魚が食べられることにつながるなど、森と海のつながりについてわかりやすく伝える。

[川]

- 毎日の暮らしの中で、水源の森から流れてきた水を大切に使ったり、家の敷地で雨水浸透させる工夫を提案するなど、流域単位の取組に来場者が関心をもち、参加につながるよう情報発信を行う。

### ③ 7-10月 出展準備

- ・抽出整理した題材の意図と、来場者の関心を喚起しわかりやすく伝える方法の例を、その他の社員に説明する。

例えば・・・

[関心を喚起しわかりやすく伝える方法の例]

- パネルや展示物、映像
- クイズ形式
- ゲーム形式
- その他、触ったり、嗅いだり、感じたり、つくったりと、体験できるもの

- ・説明を聞いた社員は、製作に携わりたい題材に立候補する。
- ・題材ごとに編成されたチームで、具体的に企画を行い、かたちにする。

### ④ 11月頃 「暮らしと木のフェア」の開催

- ・プロジェクトチームのメンバーを中心に、社員全員が来場者への説明等を行う。
- ・来場者へのアンケートを行い、企画意図が来場者に伝わったかを検証する。

留意点

○フェアの出展方針を検討するプロジェクトチームは、多様な部署の担当により構成されることが望ましい。

発展性





※2017年度以降

○②で抽出整理された、自社の事業もしくは地域づくりを主眼に置く社会貢献活動と瀬戸内海の環境保全との関わりについて、フェア以外においてもラジオ番組などでも取り上げ、多様なステークホルダーに向けて広く発信する。

○イベントで紹介した題材は、ショールーム「暮らしらぼ倉敷店」での活用も検討する。



## 服部興業(株)

プログラム名	上流の森のことを下流の人々に発信
概要・ねらい	水や栄養塩類を提供することで「豊かな瀬戸内海」を育む森。真庭市にある社有林（約 380ha）で健全な森の生態系を守り、活かし、より良くし続ける企業の想いや工夫を、専門家と連携のうえ整理し、流域の市民に発信する。
主な ESD の視点	ESD の要素：多様性○、相互性◎、有限性○、公平性○、連携性◎、責任性○
	能力・態度：批判○、未来○、多面◎、伝達○、協力○、関連◎、参加○
対象	新入社員をはじめとした社員、 将来的には、流域の小中高等学校や住民、漁業関係者 等
プログラムの流れ ※2016 年度中に実施するイメージ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>① 5-6 月 社有林における瀬戸内海的环境保全に関わる題材の抽出</b></p> <p>・社員（山林部）2～3 名と ESD や自然環境の専門家が一緒に社有林を歩き現況を共有した上で、ワークショップを行い、瀬戸内海的环境保全につながる題材を抽出、整理する。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  <div style="text-align: right;">    </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>② 7 月 社有林における新入社員対象とした山林研修プログラムの検討</b></p> <p>・上記を踏まえて、新入社員を対象とした、3 泊 4 日の社有林における体験プログラムを検討する。宿泊は、落合山荘を利用。 例えば・・・</p> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 10px; margin-top: 10px; background-color: #e0f0e0;"> <p>[基礎的な知識]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「豊かな瀬戸内海」を育む上流の森の大切さ</li> <li>● 豊かな森を育む企業としての想い、施業の工夫や課題 等</li> </ul> <p>[森の豊かさの体感]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 森の自然の豊かさの指標となる動植物の観察や調査</li> <li>● 野鳥調査などを通じた自然林と人工林の生物多様性の比較</li> <li>● 森と共に生きる溪流の生きものの観察や調査 等</li> </ul> <p>[豊かな森を育む創意工夫の体験]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 下層植生を充実させる（強度）間伐の体験</li> <li>● 高木類や中低木類の広葉樹、野草の植栽</li> <li>● 希少な動植物の保護増殖や生育生息地の保全改善 等</li> </ul> </div> </div>

③ 8月 新入社員を対象とした山林研修プログラムの試行

- ・新入社員を対象に、様々な体験や、それらを通じて気が付いたこと、感じたこと、学んだことを踏まえて、服部興業における社有林を活かした豊かな瀬戸内海への貢献のあり方について、一般市民に伝えていくためのパネル展示の素案や実践の様子を紹介した壁新聞にまとめる。

④ 9月～ 上流の森のことを下流の人々に伝える

- ・③をもとに作成した展示パネル等を、服部パーキング（岡山市北区）や県南4カ所にあるガソリンスタンドの敷地内に掲示し、利用者や通りがかりの一般市民に向けて、豊かな瀬戸内海を育む上流の森の取組を広く発信していく。

株式会社 服部パーキング



設立年月日 1989年4月(平成元年)  
住 所 岡山市北区錦町2-1 〒700-0902  
事業内容 駐車場(320台収容)



留意点

- これまでの社員研修のプログラムに、豊かな瀬戸内海に向けて森を守り育てる大切さ、また、1818年の創業後、大正時代から持ち続けている服部興業の社有林への想い、社有林の生物多様性を高める工夫や課題などを加える。
- 半日～3日など、想定する対象が望ましい滞在時間ごとの体験プログラムを検討する。
- 取組を会社案内、HPや社内報に掲載し、取組の大切さを社内外に広く周知する。

発展性

※2017年度以降

- 多様なステークホルダーが上流の森を学ぶ機会の提供
  - ・新入社員を対象とした山林研修プログラムは、現在進めている大学生のインターンシップ、また、流域の小中高等学校や住民、漁業関係者、提携する企業の新入社員研修にも適用が可能。流域の多様な主体に周知し参加を促す。
  - ・プログラムの一環として、社有林から創業地である海沿いの牛窓まで、森里川そして海の物語を考える。
- 服部パーキングを森里川海をつなぐ情報発信の拠点に
  - ・市街地における森里川海の情報発信の拠点として、街中で森がイメージできるよう、自社の間伐材や社有林の在来種などを活用しウッドイノベーションを行う。
  - ・山林研修プログラムに参加した流域の多様な主体の活動の様子を掲示する。
  - ・多様なステークホルダーとの連携をすすめ、さらなる情報発信を図る。

